

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-162	14-307	慶應義塾大学
<b>題名(原題/訳)</b> The Social Health Intervention Project (SHIP): protocol for a randomized controlled clinical trial assessing the effectiveness of a brief motivational intervention for problem drinking and intimate partner violence in an urban emergency department. 社会的健康介入プロジェクト(SHIP):都市部の救急治療外来で問題飲酒と個人的パートナーに対する暴力行為に対して短い動機の介入の効果を評価する無作為抽出臨床試験のためのプロトコル。		
<b>執筆者</b> Rhodes KV, Rodgers M, Sommers M, Hanlon A, Crits-Christoph P.		
<b>掲載誌</b> BMC Emerg Med. 2014 Apr 18;14:10. doi: 10.1186/1471-227X-14-10.		
キーワード	PMID	
暴力行為、救急医療、ソーシャルワーカー	24742322	
<b>要旨</b> 背景: 2つの一般的な公衆衛生問題の間には強い互恵的關係がある:個人的パートナーへの暴力行為と暴飲(両方とも罹患率と死亡率の主要源である)。 救急治療外来の短い介入がアルコール関連の損傷を減らすことに効果的である。しかし、古典的な個人的パートナー暴力行為も薬物濫用への介入も、評価されず、これらの共起している状態の治療が適切に集積されることはなかった。 本研究の全体の目的は、救急外来訪問時に加えられる動機の介入が暴飲を減らして、個人的パートナー暴力行為を経験している女性の安全を改善するかどうか決定することである。 方法と設計: 我々は、2カ所の都市部救急外来の1つに現れ飲酒問題と個人的パートナー暴力行為を自己開示した600人の18-64歳の女性患者を無作為対照臨床試験のためにデータを収集している。適格患者はランダム化され、短いマニュアルに導かれた動機介入をし、10日後に電話によるブースターを行った。介入は救急部訪問の間、マスターレベルのセラピストによって行われ、記録されて、忠実度がモニタされる。第1のアウトカムは暴飲の発症と個人的パートナー暴力行為の事件であり、12週間の間Interactive Voice Response Systemによって毎週評価され、群割り付けが知らされていないインタビュアーにより3, 6と12ヵ月に評価された。評価の影響を単独で同定するために、我々は、3ヵ月の時点で一度だけ評価をする非接触対照群を含めた。第2のアウトカムは、他の健康関連の習性ととも暴力重症度(Composite Abuse Scaleとアルコール量/頻度の変化)を含む。分析では、ありそうな介入の媒介変数と調整変数の影響も調査する。 考察: 個人的パートナー暴力行為のためのスクリーニングと介入が、現在健康管理設定で小児を含んだ年齢の女性に推薦されているが、どのようなことを誰のためにするのかという厳密な評価の必要がある。完成時には、暴飲と個人的パートナー暴力行為の発症を減少させるために、我々は救急外来でソーシャル・ワーカーによって施行された低度の短期動機の介入の効果に関する高い証拠が得られるだろう。最終的に、これはそして、他の急性疾患の健康ケアにおいても一般化できるモデルとなる。		